



新入園児の皆さん入園おめでとうございます。本日はこの若竹保育園が平成27年度のスタートの第一歩を踏み出す日です。桜の花も今年は入園をお祝いするかのように咲き始めました。在園児も進級に胸を膨らませている様子がありありとうかが

えます。新しい保育者と出会い、初めての保育園生活を体験される保護者の方には何かと不安があると思いますが、私たち保育者一同精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。また保護者の皆様方には昨年度同様保育活動に関してご協力いただくことが多々あると思いますがどうか、よろしくお願い申し上げます。

毎年このことは述べさせていただいていますが、年度の当初の期間は新しい友達、模様替えしたクラス、新しい担任といった環境の変化によって多少落ち着かない日々を過ごしながら、やがて落ち着いてきて（安定期）自分の周りの環境を理解し始める（友達関係や職員との信頼関係など）ようです。（これから先が成長期といった具合に。）

子ども達が一年を過ごすなかで一番大切なものはなんといっても保育環境で、とりわけ人的な環境は子ども達が成長する上で最も重要なことだと思っております。子ども達が生き生きとしている保育園、外面的にも、内面的にも活気にあふれている子ども達、そんな子ども達が、眼を輝かしながら生活し、快適に過ごすことの出来る保育園、それが活力のある保育園であると思えます。

子ども達が生き生きと生活し、快適に過ごすことの出来る状態をつくるのは、とりもなおさず、保育園職員の力量であり、若竹保育園全体の保育力です。

若竹保育園の果たす役割を考えると、子ども達に対して人としての基礎、基本を身につけること、身につけた基礎、基本を基にして、創造性を発揮すること、人間としての生き方を身に着けさせることだと思っております。

子どもたちのところに体験した情景は子どもたちの五感を通してしっかり記憶に残っているものです。裏山での虫との触れ合い、畑の周りの草花を摘み、飾りにする行為、メダカや昆虫、オタマジャクシなどを飼育することでその一生を知り、命の不思議さを感じていることなど、子どもたちの学びの場所はいたるところに存在しています。その最も中心的な行動として、子ども達が自ら率先をして子ども同士で取り組む遊び、時には自分が中心となり、時には自分が脇役にまわるなどしながら、職員も含め大いに遊びこむ、このことが子ども達の社会性を身につける上で非常に大切なことと認識しています。

そのとき子ども達の眼は輝き、心は能動的、積極的に働きます。創造性とは、しっかり身につけた基礎、基本があって育つものであると思えます。正義感にあふれ、思いやりの心の深い子にあふれている保育園でありたいと日々願っています。

いつも前向きに明るく生きようとしている保護者、保育者の姿は子ども達に何よりの「心の宝物」を与えていくものと確信しております。保護者の方々、地域の人々の協力を頂きながら、この若竹保育園をよりよくするための努力をしていきたいと思っております。どうか今年度もよろしくお願い致します。

園長 山崎淳一

